

滋賀選挙区「林久美子」氏 奮闘およばず再選逃す 第24回参議院議員選挙

7月10日に第24回参議院議員選挙の投票が行われました。滋賀選挙区は連合滋賀が推薦した民進党現職の「林久美子」氏の再選を目指し組合員一丸となり選挙戦を闘いましたが、思いは届かず再選を逃すという無念の結果となりました。比例区では過去最多となる12人を連合構成組織内候補として擁立し、8人が当選するという結果となりました。候補者名の総得票数は約211万票で過去最多の182万票(2007年)を上回る結果となりました。

全国での選挙結果として連合と政策協定を結ぶ民進党は32議席を確保するとどまり、非改選議席と合わせた49議席は、選挙前の60議席から議席数を減らす結果となりました。



街頭演説を行う林久美子候補者

厳しい選挙戦の中で奮闘いただきました各構成組織や地協の役員、組合員と家族、退職者組織を含めたすべての関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

連合滋賀は、今後とも「働くことを軸とする安心社会」を実現すべく、働く者の代表として雇用不安・生活不安の解消と格差社会の是正を求め、政策・制度実現に全力で取り組んでいきます。

【第24回参議院議員選挙 滋賀選挙区結果】	
林久美子(民進党)	291,290票
小鐘隆史(自民党)	332,248票(当選)
荒川雅司(幸福実現党)	12,705票

【第24回参議院議員選挙 比例区結果】	
小林正夫(電力総連)	270,285票(当選)
濱口誠(自動車総連)	266,623票(当選)
矢田稚子(電機連合)	215,823票(当選)
川合孝典(U Aゼンセン)	196,023票(当選)
難波奨二(J P労組)	191,823票(当選)
江崎孝(自治労)	184,187票(当選)
那谷屋正義(日教組)	176,683票(当選)
石橋通宏(情報労連)	171,486票(当選)
田城郁(J R総連)	113,571票
藤川慎一(J A M)	112,995票
轟木利治(基幹労連)	108,522票
森屋隆(私鉄総連)	102,208票

国民の声を反映できる政治を取り戻すために一致団結!

第26回連合滋賀議員団会議総会

連合滋賀議員団会議は、第26回定期総会を7月23日(土)琵琶湖ホテルにおいて、議員団会員とOB会員、連合滋賀役員、地協役員あわせて約80名の参加のもと開催しました。

定期総会は、角田航也幹事(県議会議員)の司会で開会され、議長に杉山泰子氏(大津市議会議員)を選出し、今江政彦議員団会議会長の挨拶に続き、山田清連合滋賀会長、林久美子参議院議員にご挨拶いただきました。

挨拶の中では、参院選の厳しい結果を受けて、自民党政権が画策する政策、特に働く者の立場からすると、解雇の金銭解決の導入や、残業代ゼロ法案(いわゆるホワイトカラー・エグゼンプション)が現実味を帯びてくることを踏まえ、「働く者・生活者」目線の声をあげるためにも、後ろを向いている場合ではなく、前を向き、一致団結していかなければならないと、それぞれ力強く訴えられました。続いて、2015年度の活動報告、会計報告、会計監査報告が拍手で承認されたあと、2016年度の活動方針、予算、役員の選出等の全ての議案が全会一致で確認されました。

総会終了後の研修会では、「全世代に広がる貧困と生

活問題〜「下流老人」と「貧困世代」から見えるもの〜」と題し、特定非営利活動法人ほっとプラスの藤田孝典代表理事にご講演いただきました。

ご自身が取り組まれている若者支援の経験から、高齢者の貧困、また若者にも広がる貧困世代など、現代の日本の貧困の現状を説明いただき、将来、今のままの日本の政策では、貧困率は増加していくであろうと貧困問題に警鐘を鳴らされ、今後の日本の福祉制度についてどう取り組むべきか提起されました。



議案内容を審議する参加者たち



連合滋賀

日本労働組合総連合会滋賀県連合会

2016年8月22日
連合滋賀 第269号
大津市松本2丁目10-6
電話077-523-0500
発行・山田清
編集・竹内真也
(定価 1部6円)
印刷 ヌメディア株式会社

滋賀県に対する要求と提言(案)を討議 「2017年度政策・制度要求と提言」討論集会を開催

滋賀県に対する2017年度に向けた「政策・制度要求と提言」の内容を討議する討論集会を8月3日(水)、ライズビル都賀山にて開催しました。討論集会には各構成組織、地協からの代表に加え、連合滋賀議員団の地方議員も加わり、全体で約90名が参加する中、活発な意見交換がなされました。

集会の冒頭、主催者を代表して連合滋賀政策委員会の小石委員長より、「厳しい経済・雇用情勢の中ではあるが、引き続き、働くことを軸とする安心社会を目指し、政策・制度の実現に向けて取り組んで行く必要がある。連合滋賀として、滋賀の県政に積極的に関わってゆくため、様々な立場・観点より政策・制度要求に対する意見を出し、県との連携を拡充させ政策・制度の実現を図りたい。」とのあいさつを受けました。

「政策・制度要求と提言」の素案の作成については、政策委員会を中心に昨年度の回答を踏まえ、県の部局協議、総括協議における意見交換を重要視する立場から要求項目を精査し、11課題48項目にとりまとめを行いました。



主催者挨拶をする小石政策委員長

意見を述べる参加者たち



まず、上田事務局長をはじめとして、政策委員である山本・内海・夏原・小澤・田中氏のそれぞれが提案説明を行いました。

提案に対する討論では、①「障害者差別解消法」にかかわって、県において「手話言語条例」、「障害者差別解消推進条例」の制定を要請②琵琶湖の水質を改善するために取り組んだせっけん運動の更なる取組③地域包括ケアシステムを構築するため、医療・高齢者福祉・介護の分野で市町間での不公平が生じないよう県において指導④障がいのある子を受け入れる特別支援学校や養護学校を増設⑤子どもの安心安全にかかわる議題に対して、行政と学童保育連絡協議会とのさらなる連携⑥介護労働者の人材を確保するために、資格取得に対する支援⑦草津線の複線化のみならず、沿線整備など湖西線と同様に要望⑧県内の道路整備を促進するための国・県の予算を拡充等、様々な意見が出されました。

最後に上田事務局長より「これらの意見を踏まえ必要な文言修正を行った上で、執行委員会で最終確認後、滋賀県知事に要求書を出して、それをもって滋賀県との部局協議、さらには知事を交えた総括協議の中で要求と提言の実現を目指していきたい。」との見解が示され、討論集会を終えました。

連合近畿ブロック 原爆展 in 滋賀

連合近畿ブロック主催の連合滋賀原爆展を8月1日から3日間、草津イオンモール2階イオンホールで開催し、のべ550名の方々にご来場いただきました。ご夫婦や親子連れ、ひとりでふらっと来られた方、パネルの写真を撮られている方、子どもが6年生で修学旅行前の事前勉強にと連合の資料を持ち帰られる方など、たくさんの方々が熱心に、じっくりとご覧になられていました。

また今回は、連合の平和行動を紹介し、広島市の平和集会以毎年献納している「折鶴」をみなさんにも作っていただくコーナーを設けたところ、たくさんの方が立ち止まりひとつ、ふたつと、折ってくださいました。平和に対する思いが詰まった折り鶴です。

折鶴に苦戦して、挫折した折り紙も残っていたり、また努力が見受けられる個性的な鶴もあり、皆さんの折ってくださった鶴を見て心が温まりました。

おじいさまが戦死されたという女性は、「子や孫には終戦のこの時期になるといつも伝えている、こういう展示をしてくれるのは本当に嬉しい」とお声をかけてくださいました。

**戦争を知らない私たちができること…
忘れないこと、語り継ぐこと、
繰り返さないこと…**



原爆資料のパネルを見る来場者の方々



平和に対する思いを詰めて折り鶴を作る親子

学生たちに労働運動、連合の活動に対する理解を！ 滋賀大学の寄付講座

7月21日、滋賀大学経済学部で行ってきた連合寄付講座の最終講座（第15講座）を迎え、受講生との意見交換を実施し、今期の講座を終了しました。前回（6月2日）に引き続き2回目の試みで、受講生を11グループに分け、それぞれのグループで、①後半6回の講座を受講して、関心深かった講義についてグループとして最も関心が集中した講義とその理由について、②労働問題と労働組合に関して個別的な関心、疑問、要望についての2つのテーマについてディスカッションを行っていただきました。それぞれのグループからの発表では、「男女平等参画とワーク・ライフ・バランス」についての意見が集中し、社会保障制度の確立、育児休業、待機児童などの



連合滋賀の寄付講座を受講する滋賀大学の大学生たち



第1回講義で講演する連合滋賀山田会長

問題についての報告がありました。

今回の講座で3年間の寄付講座は終了しますが、これまでの講座の中で、学生の皆さんの就職後においては、いわゆるブラック企業問題やパワハラ、長時間労働や過労死など、職場を取り巻く環境は年々厳しくなり、ワークルールの知識をはじめ労働組合の存在が必要となっています。

連合に関心を持っていただくことで、労働運動に対する理解を深めていただき、相互の意見交換を通じて、「働くことを軸とする安心社会の実現」に向けた活動に役立てていくべく、継続して講座が開催できるよう検討していきます。

次代を担うリーダーの育成を！ 淡海リーダーセミナー2016 <第3期生>

次世代の組合リーダー育成を目的として開講した「淡海リーダーセミナー」も今年で3年目となりました。

第1回目は5月28日に、2期生からも好評であった法政大学経営大学院イノベーションマネジメント研究科の藤村博之教授にお越しいただき『「いい会社」「いい職場」を創る労働組合の役割と活動のあり方-会社の元気は労働組合が創る-』と題した講義でスタートしました。

第2回目は7月30日～31日にウッディバル余呉での1泊のセミナー。

1日目は、2期生の有志による企画・運営で行い、講師には草津市議会議員で淡海リーダーセミナーの1期生でもある、土肥浩資さんに「教えて土肥さん！～労働組合の役割と必要性～」と題し、ご自身の経験談を含めながら労働組合が働く私たちにどうして大切か、また政治とのかわりについてもわかりやすくお話しいただきました。

この日は受講生で協力し、夕食を自炊するというカリキュラムを設け、カレーにサラダは必須とした上で、副菜はみなさんのアイデアにお任せし調理していただくとなりましたが、非常に楽しい交流会となりました。

2日目は、同志社大学社会学部の石田光男教授に「日本の労使関係の特質と企業別労働組合の新たな役割」とした講義をしていただきました。講義後のディスカッションも回を重ねると、熱い議論になりました。

今後は、9月24日、10月29日にセミナーを予定しています。



第1回淡海リーダーセミナー
グループディスカッションを行う受講生たち
5月28日 場所：草津ボストンプラザホテル



第2回淡海リーダーセミナー
協力し、夕食を準備する受講生たち
7月30日～31日 場所：ウッディバル余呉

第1講座



法政大学経営大学院
藤村博之教授

第2講座



草津市議会
土肥浩資議員



同志社大学社会学部
石田光男教授

琵琶湖の環境保全へ向け、新たな試みを！喫緊の課題へ挑む！ 連合滋賀青年委員会水草除去ボランティアを実施！



水草を湖岸で乾燥させる参加者たち



乾燥させた水草を回収する参加者たち



ゴミ袋400袋分の水草を回収

びわ湖の水草問題について、とりわけ南湖を中心に、湖底の大半が水草が覆う状態になっており、湖流の停滞による水質の悪化や低層の低酸素化、ヘドロ化など自然環境や生態系に悪影響を与えています。また、夏季には湖岸に打ち上げられた水草が乾燥し、悪臭の原因にもなっています。

そういった琵琶湖の現状を踏まえ、連合滋賀青年委員会では昨年まで開催してきた「びわ湖クリーンフィッシング大会」に代わる新たな試みとして、「水草除去ボランティア」を計画し、約30名の参加のもと、7月31日大津市なぎさプロムナード周辺にて実施しました。

作業としては、湖岸に流れ着き堆積している水草を、一

旦岸辺へ打ち上げ、水分を除去するために乾燥させた後に回収するという流れで行いました。また、並行して空き缶やペットボトルといった水草以外のゴミについても回収を行いました。

予想以上の水草の量であり、当初予定していたエリアのすべての水草を回収することはできませんでしたが、45リットルのゴミ袋約400袋分の水草除去をする事ができました。作業中には道行く市民の方々からねぎらいの言葉も掛けていただきました。

初めての試みということもあり手探りの中での実施となりましたが、この活動を発端として、地域の活動にも広がっていくよう今後、改善点などを検討し取り組んでまいります。